# わたし達の身近なＳＤＧｓ

長沢小・５　小倉　千歩

「ＳＤＧｓ」。わたしはこの言葉を四年生の時に行ったごみの出前授業で聞きました。それからテレビやネットニュースなどでよく「ＳＤＧｓ」という言葉を聞くようになって、「ＳＤＧｓ」を調べてみたいと思いました。

では、まず「ＳＤＧｓ」とは何か説明します。「ＳＤＧｓ」とは、二千三十年までに達成を目指す世界目標のことで、持続可能な開発目標の頭文字をとった略語です。十七の目標が決められています。わたし達がよく聞くのは、「ＳＤＧｓ」の十七の目標で、それぞれキャッチフレーズが付いています。正式な目標がよりくわしく挙げられていて、各目標をより具体的にしたターゲットが計百六十九個あります。

例えば、「十二　作る責任　使う責任」という目標があります。この場合、具体的なターゲットが十一個あります。

中でもわたしは「二　きがをゼロに」と「十二　作る責任　使う責任」に強く興味をもちました。二の目標では、世界人口七十七億人のうち、九人に一人が長期間の栄養不足やきがに苦しんでいることなどが分かります。また、二千十八年の日本のが死による死ぼう者の数は二十二人です。このようなことが「二　きがをゼロに」から分かります。

「十二　作る責任　使う責任」からは日本が食品ロス世界一だということが分かります。日本では、年間六百十二万ｔの食品がすてられています。これは、毎日一人一個のおにぎりをすてていることになります。そして、まだ食べられるのにすてられた主な理由は、四つあります。食べ残し、いたんでいたこと、賞味期限切れ消費期限切れなどの期限切れ、美味しくないという理由です。わたしも食べ残しをしてしまうので、びっくりしました。なので、自分でなるべく残さず食べることを生活に取り組んでいきます。

わたしが調べた本の中には、他にも気になった言葉が書いてありました。「げき安商品のうらには児童労働がある」と「余ったらすてろ、作りまくれ」の二つです。わたしは何だろうと思いました。みなさんもこの二つを聞いておどろきませんか。

では、「げき安商品のうらには、児童労働がある」についてお話します。おやつでよく食べるチョコレート。原料となるカカオは外国で作られています。カカオ農家の人たちは毎日一生けん命カカオを作っています。しかし、家族みんなで作っても、十分なお金がもらえません。また、わたし達は毎日学校に行くことができますが、カカオ農家の子ども達は学校にも行けずに働いていると書いてありました。毎日家で食べているおいしいチョコレート。わたし達はお小づかいでいつでも買えます。わたし達と同じ年れいの外国の子ども達が学校にも行かずに働いてカカオを作ってくれていることを思うと、わたしは悲しい気持ちになりました。

次に「余ったらすてろ、作りまくれ」と書いてありました。みなさん、物を作っても余るのに、なぜまた物を作るのかと不思議に思いませんか。わたしはよく意味が分かりませんでした。発てんと上国には、食べる物がなくてこまっている人がたくさんいます。それ

なのに、日本をふくむ先進国では、毎日のように食材がすてられています。売る側は売上のためといって商品を作りすぎないこと、買う側は、必要以上に買わないことが求められます。売り上げのために商品を大量に作ることや安いからといって余分に買うことはよくないことだと思いました。

その反対に買うことが助けになることもあると知りました。食品の中には、「レッドカップマーク」というマークが付いているものがあります。これは、世界のめぐまれない子ども達に、学校給食をとどけるための支えん活動を意味しています。わたしもこのマークの付いた食品をさがして買ってみたいと思いました。

わたしはこれからもっと「ＳＤＧｓ」を理解して、自分でもできることを増やしていきたいと思います。毎日の小さな行動が「ＳＤＧｓ」の活動の一つになり、世界や地球全体を変えていくことを色んな人に教えてあげたいと思います。